

令和5年度 「豊かなむらづくり全国表彰事業」 東北ブロック受賞事例の概要

農林水産大臣賞

そばの力で農村集落を次世代へ 伝統と革新が息づく力強いむらづくり

○団体名 横岡集落 (横岡稲倉そば生産組合 組合長 齋藤 喜久男)

○所在地 秋田県 にかほ市

○むらづくりの背景・経緯

横岡集落では、少子高齢化・担い手の減少等により、保安全管理されない農地が増加していたことから、平成23年にそば生産組合を設立し、地域の耕作放棄地の農地集積を行い、そばの作付け拡大に取り組んだ。その後、近隣地域のそば生産組合と協議会を組織し、現地研修会や情報交換を行いながらそば生産を盛り上げる活動を行っている。

さらに、にかほ市が行っているグリーンツーリズムの活動では、集落と生産組合が連携し、都市部の子供たちの受け入れを行ったことで地域外との交流が活発となっている。

令和3年には、地域おこし協力隊「Ventos (ベントス)」との連携により、都市住民への情報発信など、新たな展開を見せ始めている。



ゲストハウス改修に参加する住民等

○むらづくりの内容

(1) 農業生産面

そば生産組合では徹底した排水対策を実施し、土壌診断の結果に基づいた施肥量調整を行うなど、収益向上につながる高度な栽培技術を確立している。また、夏そばと秋そばを組み合わせた作付けを行っており、毎年8月に都内の飲食店で開催される「新そば祭」では、収穫期が早い夏そばを全国に先駆けて提供し、県外の消費者に横岡産そばをPRしている。



集落内の棚田に作付されたそば

(2) 生活・環境整備面

そば生産組合では、耕作放棄地を解消してそばの作付けを行うなど、地域の景観保全に貢献している。

平成22年からは、市と連携して東京都港区の子供たちを受け入れ、農業体験やそば打ち体験を行っている。また、市が開催する婚活イベントのそば打ち体験では、そば生産組合の組合員が講師を引き受けるなど、地域外との交流活動にも積極的に取り組んでいる。

地域おこし協力隊が手掛けるゲストハウス「麓☐-Rokumasu」の改修には地域住民も参加しており、完成後は、他地域との関係人口創出や定住促進等の地域拠点として、集落やそば生産組合と連携した活用が計画されている。



そば打ちの伝承



改修中のゲストハウス

令和5年度 「豊かなむらづくり全国表彰事業」東北ブロック受賞事例の概要

農林水産大臣賞

(内閣総理大臣賞 受賞)

おいでよ！そばに 棚田と清水、摩耶の里・こえさわ

○団体名 越沢自治会(会長 伊藤 治)

○所在地 山形県 鶴岡市

○むらづくりの背景・経緯

少子高齢化による人口の減少や転出者が目立ち始めたことから、集落の存続に危機感を抱いた住民が「越沢自治会活性化委員会」を組織し、地域の将来像を描く「越沢活性化ビジョン」を策定することになった。

策定にあたり、中学生以上の住民全員を対象としたアンケート調査を実施し、①暮らしの不安解消、②魅力磨きと賑わい創出、③特産物のブランド化・販路拡大などの柱からなる行動計画を作成し、実践・実現を目指し住民全員参加のむらづくりが進められている。



越沢自治会メンバー等

○むらづくりの内容

(1) 農業生産面

集落内には古くから自家採種による地そばと呼ばれる「三角そば」が栽培されており、平成28年に在来作物として確認されたことを契機に「越沢三角そば」としてブランド化の取組が始まり、地域の在来作物のそばを来訪して味わっていただきたいことから、打ち立てのそばは「そば処まやのやかた」だけで提供している。

また、「越沢三角そば」を安定的に提供するため、経費を算定したうえで買取可能価格を計算し、越沢自治会が1kg当たり450円の固定価格で全量買い取ることとし、生産者も安定した収入が得られる仕組みが構築されている。



そば処まやのやかた

(2) 生活・環境整備面

豊かで美しい原風景を後世につなげていくため、やまがたの棚田20選の「越沢の棚田」や里の名水・やまがた百選の「郷清水」の環境整備を定期的に行うとともに、集落内での行事や風景写真を収めた「越沢カレンダー」を作成し全戸へ配付している。

冬期には「雪下ろし協力隊」を結成し、屋根の雪下ろしが困難な高齢者世帯を対象に除雪を実施している。

「そば処まやのやかた」では、集落内の女性が休日を活用し輪番制で調理・配膳等を行っており、女性目線のアイデアを活かしながら、そばを核として豊かな自然を最大限活用し、住民参加による活気あるむらづくりを推進している。



やまがたの棚田20選
「越沢の棚田」



まやのやかた女性スタッフ

令和5年度 「豊かなむらづくり全国表彰事業」東北ブロック受賞事例の概要

東北農政局長賞

地域と協働し 皆が輝くむらづくり

○団体名 よこみちファーム株式会社（代表取締役 小原 伸一）

○所在地 岩手県 胆沢郡 金ヶ崎町

○むらづくりの背景・経緯

横道下地区は、住宅地と農村地域が混在する地域では場条件が悪く、農家の高齢化や後継者不足が顕著であったことから集落内で話し合いを重ね、地域内の人材循環の保持及び地域農業の継続的発展を目的に、平成26年4月によこみちファーム株式会社を設立し、簡易ほ場整備の導入による作業条件の改良と農地の集積を進めるとともに、地域の女性が中心となりキムチの製造・販売にも取り組んでいる。



よこみちファームのメンバー

○むらづくりの内容

（1）農業生産面

簡易ほ場整備の導入による作業条件の改良と集積を進めるとともに、水稻耕作不利地等において、アスパラガスやたまねぎ等の園芸作物を導入し、農地の有効活用に努めている。また、流通面においては、独自に地元スーパーとの直接取引を行い、自社ブランド精米約20tを販売している。

地域農業を守るための法人として、毎月法人の事業計画について話し合いを行い、ほ場の拡大や農作業の効率化等の地域課題等を把握し検討を行っている。

令和2年に加工施設を建設し、地域の女性9人で構成される団体に委託し、法人が生産した、はくさい、にんにくなどを原料としたキムチの製造・販売を行っている。キムチは県内スーパーで常時販売される人気商品となっており、地域の雇用の確保に貢献している。

（2）生活・環境整備面

多面的機能支払交付金事業の代表及び事務局を当法人の構成員が担っており、地域と当法人が連携し地域が一体となって事業を行っている。

また、冬期は町内企業から除雪を請け負い、地域農業者の雇用確保にも務めているほか、集落内の国指定史跡の草刈り作業や高齢者施設の生垣整備など、農村と住宅地を含めた景観維持活動にも取り組んでいる。

当法人の事務所及び加工施設は、集落内の非農家や他地域の農業者等と地域のコミュニケーションスペースとしての機能を担っているほか、町内の中学生を対象とした研修も受け入れており、地域農業への理解醸成の場として活用している。



集落内の農地



加工施設でのキムチ製造

令和5年度 「豊かなむらづくり全国表彰事業」東北ブロック受賞事例の概要

東北農政局長賞

人々の「心」を耕し、「結」の精神を育むむらづくり

- 団体名 倉区 (区長 渡部 辰雄)
- 所在地 福島県 南会津郡 下郷町
- むらづくりの背景・経緯

倉区では過疎化が進み、遊休農地の増加や地域の伝統や文化を守る意識、地域コミュニティの希薄化など、地域力の低下が問題となっていた。

このような状況の中、県営事業の経営体育成基盤整備事業の取組を始め、担い手農家による農地集積・経営規模拡大が実現し、低コスト農業の実現など地域農業の活性化に大きな成果をもたらした。また、事業完了までの17年間で事業だけでなく地区全体の活性化についても話し合いが行われるようになった。



倉区住民

さらに、平成26年には多面的機能支払交付金事業の取組を開始し、これをきっかけに寄合や集会の場でも自然とむらづくりが話題となるようになり、話し合いの中から新たな活性化の提案や実施に繋がるなど、むらぐるみの取組が広く浸透している。

○むらづくりの内容

(1) 農業生産面

農作物の獣被害防止のため、令和2年～3年にワイヤーメッシュ柵を約2.7km設置し、柵の春季補修などを継続実施している。これにより獣被害(イノシシ)は大幅に減少し農業生産力向上につながっている。また、農地の法面の草刈り作業軽減のため、抑草シートを計画的に敷設するなど、多面的機能支払交付金を活用した取組を行っている。イノシシによる水田法面等の掘り返し軽減にも効果があるとされている彼岸花の植栽を、区と区内の各団体が連携して取り組んでいる。

(2) 生活・環境整備面

江戸末期から明治の初めに造られた「^{えんぞうぜき}円蔵堰」は、現在も地域の水田を潤すとともに生活用水としても不可欠な施設となっており、区は、取水ゲートを改修して施設の長寿命化に取り組むほか、施設を後世に残すための学習会やウォーキングイベントを開催し、地域のコミュニティ活動の強化と地域内外との交流の場としても活用している。

また、区の婦人会が中心となり国道脇の花壇の整備として、毎年花の植栽を行っており、区内の景観維持に努めている。

地域住民の交流の場として、収穫祭等の各種行事を開催しており、令和3年には「倉村芸術祭」として、フォトコンテストや芸術作品の展示等を行っている。



侵入防止柵



円蔵堰を巡るウォーキング